

丸協にゆーす

- 渡部智社長対談：湯浅和夫氏（株式会社湯浅コンサルティング社長）
- お客様紹介 「富永貿易株式会社様」
- 丸協現場女子特集ver.1
- 今、知っておきたい物流topics「脱路線＋『リードタイム＋1』」



社長対談：湯浅和夫氏（株式会社湯浅コンサルティング代表取締役社長）



「物流危機」が盛んに言われています。今後、物流はどうなるのか？ 物流事業者はどうあるべきか？ 渡部社長がかねてより敬愛しているという湯浅和夫氏との対談により、丸協は今後どうあるべきか、方向性を探ります。

写真左から湯浅社長、渡部社長

社長）湯浅先生は最近、物流危機に関わる本を出されましたが（「物流危機の正体とその未来」）、今後、物流はどうなっていくと考えておられますか？

湯浅）正しい方向に行くと思っています。つまり、徹底的にムダを排除した姿です。先進的な荷主は既に行動を開始しており、例えば納品リードタイムを1日延ばすことで、倉庫側の作業のムラの排除、配送車両の積載率低下というムダの排除を行っています。

社長）物流事業者はどうあるべきでしょうか？

湯浅）作業員・ドライバーを確保し、確実な物流業務を提供し続けるというのがミッションになります。コンプライアンスを遵守することがこれまで以上に重要になります。人の確保に関わるコストは増大しますが、運賃値上げも行いつつ、社内で適正に収入を配分することが重要です。足を持つ事業者の価値が高まりますね。

社長）湯浅先生の著書に「物流は美しくなければならぬ」という言葉がありました。

湯浅）無駄のない美しい姿が追求される時代が来たと感じています。

対談は非常に盛り上がり、渡部社長に大きな影響を与えた、あの方の話題も……。次号に続きます！



お客さまの声 富永貿易株式会社様



2019.3 丸協にゆーす

富永貿易様（東京都中央区：本社兵庫県神戸市）は食品輸入商社であり、PB商品の製造・販売も行っております。丸協とのお付き合いは20年以上。商品や資材の保管のほか問屋・小売りセンターへの納品も受託しています。専務取締役の星様、執行役員の小林様にお話を伺いました。



星専務取締役

小林SCM本部長

Q！）丸協とは大変長いお付き合いですが、そのポイントは何ですか？

星様）やはり信頼感です。いま「物流危機」と言われていますが、私達は丸協さんより3～4年前から「早晚こういう時代が来る」と聞かされ、当初は実感できませんでした。1～2年ほど前からは本当だと感じ備えてきました。

小林様）弊社はすべて物流は外部委託です。どうしたら一番コストをかけずにできるか、まるまる相談しています。一つのチームとして同じ問題の解決にあたるパートナーです。

Q！）何か信頼感を強めたエピソードはありますか？

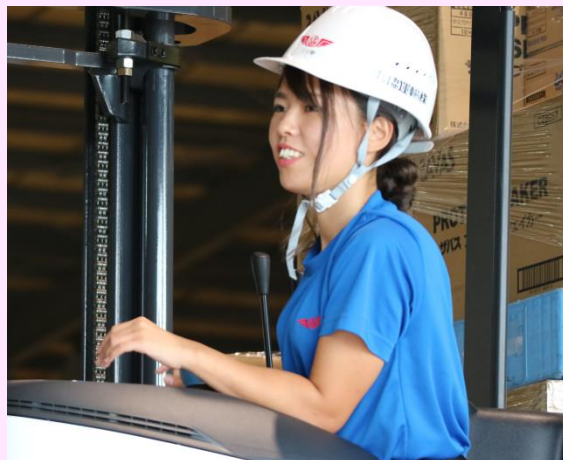
星様）物流体制を変更したとき、配送を丸協に集約するか検討したことがありましたが、丸協側から他社を継続して利用したほうがよいとの提案を受けました。丸協の収入増よりも、安定した配送を確保することを優先した判断をしてくれました。

小林様）社長だけでなく社員の方も全員そういう方々なので、本当に頼れるパートナーです。



北関東LC

吉田 成美さん



- ①今の仕事をやりたいと思ったきっかけは？
- ②今やっている仕事の魅力

R様 リフト作業

- ① フォークリフトの資格を活かしたいと思ったため。
- ② ・運転技術が自分で実感できるくらい成長できる。
・全体を見ようと目配りし、効率を考えて仲間と意見が言い合える。
・みんなと仲が良いので結束力が強く、楽しく仕事ができる。

北関東LC

高根澤 美那さん



R様 リフト作業

- ① フォークリフトに興味があり、物流関係の仕事に興味があったからです。
- ② 一つ一つの作業が細かく、その細かい作業によって、一つ一つの作業が自然と丁寧になっていき、何度も見直して仕事に取り組むことができます。

中四国丸協運輸 西条営業所 (K様構内)

浅井 友萌香さん



K様工場内 リフト作業

- ① おもしろそうだと思い、私もできそうだと
思ったから。
- ② (4勤2休の勤務体制なので) 自分のライフ
スタイルにあわせやすい。

今回は4名の「現場女子」の方々をご紹介しました。まだまだ丸協Gには「現場で輝く女子」がたくさんいらっしゃいますので、また次回以降ご紹介させていただきます！

大阪共配店

安田 美穂さん



ドライバー (2T車)

- ① 運転することを仕事にしたかった。トラック
に乗れたらカッコイイかな、と思った。
- ② 重たい荷物を持っているとお客様に褒めて
もらえる。褒めてもらえるとうれしくなる。
毎日たくさんの人と会うので、人見知り
が少しましになった。

今、知っておきたい物流topics

脱路線+「リードタイム+1（プラスワン）」

ご存知のとおりドライバー不足により、荷主の方々は、安定した納品体制を築くのに苦労されています。なかでも路線便を活用されていた方々は、**運賃高騰**、**残荷**に悩まされています。

ある荷主に聞いたところ、「運賃高騰は許容するしかない。本当に困るのは届かないこと」とのこと。現在、路線便では確実に届かないリスクが非常に高まっているのです。

解決策は共同配送しかありません。路線でお困りの荷主がおられたら、丸協が持つ共同配送ネットワークに載せられないか、ぜひ考えてみてください。

これまでと同じ納品条件では載せられない可能性もあります。そのときは、もうひとつの最近のキーワード「リードタイム+1（プラスワン）」を考えてみてください。

日清食品、味の素、キューピーなどは、これまで「翌日納品」していたのを「翌々日納品」に切替を進めています。これにより、倉庫内作業、配送の両方から無駄をなくし、持続可能な物流を行おうとしているのです。今号で紹介した富永貿易さんも基本的に「翌々日納品」を守ってこられたそうです。

今後、トラック不足が深刻化といった状況変化により、あっという間に「翌々日納品が主流」となる可能性があります。翌々日納品で荷主が困ることは何もないからです。